

委託事業実施内容報告書
平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 NPO法人 沖縄国際人材支援センター

1. 事業名称 : 「県内在住生活者としての外国人」のための地域日本語教育実践プログラム
2. 事業の目的 : 沖縄県内に住む外国人が、日本語能力の不足によって不利益を生じないよう日本語力をつけていくために、周囲の日本人が積極的に関わっていけるような態勢を整える。
3. 事業内容の概要
多文化共生の講演会、生活に必要な日本語を学ぶ日本語教室、自国の文化を日本人に伝える大交流会、外国人が就活を学ぶ勉強会、受け入れる市町村の担当者が情報共有できる場の設定。

4. 運営委員会の開催について
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 10月9日 (木) 14:00~ 15:00	1時間	沖縄県庁内会 議室	下地 誠 西宮翔太 久貝美三郎 上原徳一郎 大仲るみ子 瀬底あ けみ	1.平成26年度事業の概要説明と進捗状況 2.文 化庁主催日本語教育研究協議会(熊本)報告 3.今 年度事業成功に向けて	運営委員に事業の概要への理解と 協力を依頼した。
2	平成27年 1月15日 (木) 11:00~ 12:00	1時間	沖縄県庁内会 議室	西宮翔太 久貝美三郎 玉城亜希 巳 大仲るみ子 瀬底あけみ	1.終了した事業(日本語クラス、講演会)の報告 2. これからの事業(就活日本語勉強会、大交流会)の 概要説明 3.地域日本語教育ネットワーク作り 4. 次年度に向けて。	県内各地で行われている日本語教 室や多文化共生事業の連携や情報 共有の必要性について、話し合わ れた。
3	平成27年 3月13日 (金) 11:00~ 12:00	1時間	沖縄県庁内会 議室	西宮翔太 上原徳一郎 玉城亜希 巳 大仲るみ子 瀬底あけみ	1.事業報告(就活勉強会、大交流会)2.平成26年度 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 総括 3.平成27年度に向けて	今年度日本語教室、就活勉強会と も新たな参加者があり、講演会、交 流会でもこれまでとは違う層の参加 があったという報告を受けて、本事 業の必要性を確認した。

5. 取組についての報告

○取組1: 県内各市町村地域日本語教育担当者ネットワーク作り

- (1) 体制整備に向けた取組の目標 : 外国人が自分の居住地の外国人担当に相談できる態勢を作る。
- (2) 取組内容 県内各地の国際交流担当と意見交換を行う。
- (3) 対象者 市町村国際交流担当者・国際交流団体担当者
- (4) 参加者の総数 49人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	47人	

- (5) 開催時間数(回数) 5.5 時間 (全 3 回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月22日 15:00~ 17:00	2時間	浦添市中央公 民館分館	13人	フィリピン(1)日本(12)	地域日本語 教育の運営 について	県内各地の国際交流団体や外国人 にかかわる組織による『国際交流・ 多文化共生連絡会』で外国人に対 する日本語教育に関して発表した。	参加者 瀬 底あけみ	
2	平成26年 12月4日 (木) 15:00~ 16:30	1.5時間	サザンプラザ海 邦	37人	中国(1)日本(36)	地域の外国 人が困ってい ること	各市町村の国際交流担当者が参加 する会議に出席し、日本語教育の必 要性を訴えた。	発言者 瀬 底あけみ	
3	平成27年 2月23日 (月)15: 00~17:00	2時間	沖縄県庁内会 議室	13人	中国(1)日本(12)	各市町村の 連携のあり方 について	この1年の「国際交流・多文化共生 連絡会」の取組について、また次年 度継続に向けた確認。	参加者 瀬 底あけみ	

- (7) 参加者の募集方法
各市国際交流協会や、外国人と関わりのある友好協会などに直接声をかけた。
- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

(1・3について) 当初は市町村担当者に直接連絡をとって集まることを考えたが、昨年のアンケートで自治体によって温度差があることがわかったので、それぞれの地域で外国人に関わっている団体の交流からスタートしようと考えていたところ、いくつかの多文化共生を実践している団体から集まらないかとの誘いがあり、月に1回程度『国際交流・多文化共生連絡会』という会合に参加した。毎回いろんな身近なテーマを話し合っているが7月に日本語教育について話す機会があり、文化庁の研修で学んできたことを発表した。外国人と日常的に接している県内各団体が定期的に顔をあわせることで情報共有や協力の態勢が整ってきている。2月の会議では、次年度も継続してこの連絡会を維持していくことが話し合われ、今後のネットワーク作りに欠かせない会となっている。

(2について)
沖縄県と沖縄県国際交流人材育成財団主催による県内各市町村の国際交流担当者の会議に参加。日本語教育の必要性を訴えた。



- (9) 取組の目標の達成状況・成果
外国人が散在している沖縄県内では、市町村によって外国人への対処の意識にばらつきがあり、そのため、まず必要性について情報収集しようと、この国際交流多文化共生連絡会を活用した。県内の多くの団体と定期的に顔を合わせることで問題の共有も可能になり、互いに助言しあう関係を築けた。
- (10) 改善点について
当初地域の日本語教育推進のためにこのネットワーク作りを立案したが、1NPO 法人が行政に呼びかけることに無理があった。沖縄県知事公室広報交流課が おきなわ多文化共生指針のモデル事業として平成27年度から各市町村担当者に呼びかけて連絡会を組織していく方向で、その会が発足すれば、この取組の意図するところが果たされることになる。
今後は、今年度組織された「国際交流・多文化共生連絡会」の中心メンバーとして、地域日本語教室に関する情報を収集したり運営への助言を行いながら、行政へ提言していきたい。

○取組2：「となりに住む外国人」を理解するための講演会と交流会

- (1) 体制整備に向けた取組の目標： 身近にいる外国人を理解し、交流を促進する
- (2) 取組内容： 講演会「多文化共生の最前線-地域日本語教室」と「第2回世界のまーさん大交流会」
- (3) 対象者： 外国人に興味関心のある日本人
- (4) 参加者の総数： 講演会39人 交流会370人

出身・国籍別内訳				
中国	3人	インドネシア	人	バングラデシュ(15人)ロシア(3人) スウェーデン(1人)アメリカ(2人) スイス(1人) イタリア(2人) アルゼンチン(2人) ポリビア(2人) スペイン(2人)
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	2人	ペルー	2人	
ベトナム	50人	フィリピン	3人	
ネパール	140人	日本	179人	

- (5) 開催時間数(回数) 8 時間 (全 2 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月1日 14:00～ 17:00	3時間	日本文化経済 学院3階講堂	39人	日本人(39人)	多文化共生 の最前線-地 域日本語教 室	地域在住の外国人に日本語を教える 際に考えなければならないこと、 そして実際に教室でどのような活動 を行うのか、ワークショップ形式で学 んだ。	田中望 山 辺真理子 与那覇麻子	瀬底あけみ 大仲 み子 仲田佳世
2	平成27年 2月15日 11:00～ 15:00	4時間	日本文化経済 学院3階講堂	370人	ネパール(140)日本人 (140)ベトナム50)バングラ デシュ(15)他12カ国25人	外国の人たち の文化をもつ と知ろう	自分の出身国の文化を食や展示を 通して紹介し、日本人と交流する。	瀬底あけみ 大仲るみ子	根路銘マリア 仲田 佳世

(7) 参加者の募集方法

新聞の無料コーナーに掲載。またチラシを作成し、公民館や外国人が多いところなどに配布した。

また講演会は、これまでの日本語指導者養成講座の受講生にはがきを送った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

講演会は、すでに日本語を教えている人やこれから教えたいと思っている人などが集まり、みな熱心に受講した。

交流会は今年2回目だが、規模が多くなり、入場者も多く、いろんなところで日本人と外国人がおしゃべりしたり、交流の輪がひろがった。

講演会のようす



交流会のようす



(9) 取組の目標の達成状況・成果

講演会は、日本語教室について情報を求めていた人たちと出会うことができ、有意義だった。

感想も日本語教室の理念が理解できた、という声の一方、実践的な教材の紹介がよかった、という声が多く聞かれた。

交流会は、これまであまり参加したことがない年齢の高い日本人の入場者が多く、地域に知らせるという意味で大成功だった。参加した外国人からも、いろんな日本人から声をかけられ楽しかったという感想を多くもらった。

(10) 改善点について

講演会は、さらに勉強を続けたい、情報がほしいという声が出ていたので、今後も

継続していきたい。交流会は、場所の使い方工夫が必要であること、みな食べることに关しては積極
的でいい交流ができたが、準備不足もあったので、次年度は早い時期から話し合いをもち、準備したい。

○取組3:「生活者としての外国人」のための読み書き日本語教室

- (1) 体制整備に向けた取組の目標 : 日本語を学びたい外国人と日本語指導者のつながりの強化
- (2) 取組内容 : 小グループに分かれて、漢字、ひらがな、カタカナを学ぶ。
- (3) 対象者 : 地域に住む外国人
- (4) 参加者の総数 62 人
出身・国籍別内訳

中国	11人	インドネシア	人	スペイン(1) イタリア((8) 台湾(8) フランス(1) アルゼンチン(1) プエルトリコ(1) ロシア(4) バングラデシュ(2) インド(1) イギリス(1) アメリカ(6) ナイジェリア(1) ホリビア(1)
韓国	人	タイ	3人	
ブラジル	1人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	9人	
ネパール	2人	日本	人	

- (5) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月27日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	18人	フィリピン(5)中国(5)ロシア (2)イタリア(2)フランス・スベ イン・アルゼンチン・台湾(各1)	自己紹介 病 院のことば	自己紹介のあと、病院に関する言 葉を漢字で読めるようにテキストを 使って学習した。	大仲るみ子	津波古洋子 下門礼 子 金城弘子 太田 雅子 東迎光二 比嘉幸枝 仲田佳世
2	平成26年 8月29日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	14人	フィリピン(4)中国(5)ロシア (2)イタリア・アルゼンチン・台湾 (各1)	病院・病気に かんすること	エボラ出血熱の記事を読みながら医 療関係の語彙を理解する。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 下門礼子 金城弘子 太田雅子 東迎光二 具志堅民子 仲田佳 世
3	平成26年 9月3日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	フィリピン(3)中国(3)ロシア (1)イタリア・フランス・アルゼン チン・アメリカ・スペイン・台湾各1	土砂災害の 新聞記事を読 む ひらがな の練習	最近の話題であれば、耳にする機 会も多いので理解しやすいかと思 い、広島土砂災害についての子 供新聞の記事を読む。初級の学習 者はひらがなを学ぶ。はじめて来た 人には病院のプリントを渡して、病 院・病気について話し合う。	大仲るみ子	福地利枝子 下門礼 子 金城弘子 具志 堅民子 新垣由美 東迎光二 仲田佳世
4	平成26年 9月5日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	11人	フィリピン(2)中国(4)イタリア・フ ランス・ホリビア・アルゼンチン・台 湾(各1)	豆腐と同性愛 の新聞記事を読 む お金の 教え方	豆腐消費の記事と同性愛カップルの 結婚の記事を読み、その話題で会 話する。初級は数字の復習とお金の やり取りについて学んだ。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 金城弘子 太田雅子 具志堅民子 東迎光 二 仲田佳世
5	平成26年 9月10日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	11人	中国(4)台湾(2)イタリア・フ ランス・アルゼンチン・フィリピン・スベ イン(各1)	血液型占いの 新聞記事を読 む 時間の 表現	血液型による性格占いについて、記 事を読んで意見をかわす。初級の人 たちは時間の言い方で四苦八苦し ていた。	大仲るみ子	下門礼子 金城弘子 太田雅子 新垣由美 東迎光二 仲田佳世
6	平成26年 9月12日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	10人	フィリピン(3)中国(4)台湾 (2)ネパール(1)	アメリカの黒人 差別に関する 記事 カタカ ナ・平仮名の 練習	いろんな国籍の人がいる中で、差別 の問題について、それぞれの意見を 交換した。語彙が難しいが、在日歴 が長い人はちょっと難しくてもがん ばっている。	大仲るみ子	福地利枝子 津波古 洋子 金城弘子 太 田雅子 新垣由美 東迎光二 仲田佳世
7	平成26年 9月17日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	フィリピン(3)中国(3)バングラ デシュ・フランス・アルゼンチン・イ ギリス・スペイン・タイ・台湾(各 1)	沖縄の自然 保護に関する 新聞記事と時 間に関する会 話練習	環境問題はみな関心があるので、 会話が弾んだ。まったくできない人が 来たので、ひらがなをやっているフィ リピンの人といっしょに勉強する。グ ループによってやっている事が違う ので、指導者もあちこち飛び回って いる。	仲里美佳子	金城弘子 太田雅子 新垣由美 具志堅民 子 東迎光二 仲田 佳世
8	平成26年 9月19日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	11人	フィリピン(2)中国(4)タイ(2)イ タリア・ブラジル・台湾(各1)	山の高さの測 定方法の記 事 道案内の 会話	山の高さの記事を読んでから、地図 を見ながらいろんな会話に発展す る。自分の国の山を紹介する人や、 日本の山について話したり、語彙を 確認しながら会話を楽しんだ。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 下門礼子 金城弘子 新垣由美 東迎光二 仲田佳世
9	平成26年 9月24日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	フィリピン(3)中国(3)タイ・フ ランス・ブラジル・スペイン・台湾(各 1)イタリア(2)	「盲導犬刺さ れる」の記事	受身の理解が十分でないひともい て、文法的な説明を交えながら、新 聞記事を読む。初級の人たちは今 までの復習をした。	大仲るみ子	金城弘子 具志堅民 子 東迎光二 仲田 佳世

10	平成26年 9月26日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	中国(5)イタリア(5)タイ・ブラジ ル・台湾(各1)	ヨーロッパの 名所についての 新聞記事	いろんな名所について話題にのぼ る。自分の国の名所を一生懸命説 明しようとして、語彙を探したり、絵を 描いたりして会話を楽しんだ。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 金城弘子 太田雅子 東迎光二 仲田佳世
11	平成26年 10月1日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	15人	フィリピン(3)中国(4)イタリア (2)アルゼンチン・スペイン・イギリ ス・ブラジル・フランス・台湾(各 1)	災害について	災害時に使われる漢字を中心に学 ぶ。初級の人たちもふりがなを頼り に、語彙の理解に挑戦する。	大仲るみ子	村越千代子 下門礼 子 金城弘子 太田 雅子 具志堅民子 新垣由美 東迎光二 仲田佳世
12	平成26年 10月3日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	9人	ブラジル・アルゼンチン(各1)中 国(5)イタリア(2)	ゴミの分別に ついて	ゴミの分別を知らせるポスターに使 われている漢字を学習する。	仲里美佳子	村越千代子 津波古 洋子 下門礼子 金 城弘子 太田雅子 東迎光二 仲田佳世
13	平成26年 10月8日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	16人	フィリピン(2)中国(5)イタリア (3)イギリス・スペイン・台湾・ブ エルトリコ・ブラジル・フランス(各 1)	病院・病気の 語彙の確認	あとから参加した人のために、もう一 度病院にかかるときの注意や問診 票、薬のもらい方などを学ぶ。	大仲るみ子	下門礼子 太田雅子 東迎光二 仲田佳 世
14	平成26年 10月10日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	7人	中国(2)ロシア・ブラジル・ハン グラदेश・イタリア・台湾(各1)	台風情報の 見方	台風接近に伴い、天気予報の見方 や、避難場所の確認などをする。	仲里美佳子	東迎光二 仲田佳世 西原智子
15	平成26年 10月15日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	19人	フィリピン(3)中国(4)イタリア・ 台湾(各2)ロシア・イギリス・ス 페인・ブエルトリコ・ブラジル・フ ランス・アルゼンチン(各1)	御嶽山噴火 の記事	火山災害に関する語彙を確認する。 初級の人々は助数詞、ものの数え方。	大仲るみ子	下門礼子 太田雅子 東迎光二 西原智子 仲田佳世
16	平成26年 10月17日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	17人	フィリピン(3)中国(5)台湾 (2)イタリア(3)ロシア・ブラジル・ ハングラदेश・アルゼンチン(各 1)	住所の書き方 市役所・役場 で使う漢字	自分の住所が漢字で書けるように練 習する。また役所の各課のやくわり などを説明する。上級者は琉球漆器 の記事を読む。	仲里美佳子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 下門礼子 太田雅子 東迎光二 仲田佳世
17	平成26年 10月22日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	17人	フィリピン(3)中国(3)イタリア・ 台湾(各2)インド・スペイン・ハン グラदेश・フランス・ブラジル・ ブエルトリコ・アルゼンチン(各1)	死刑制度に 関する新聞記 事を読む 形 容詞を学ぶ 50音表記の 練習	レベルに差がついてきたので、3つ のレベルに分かれて、それぞれの課 題に取り組む。新聞は死刑制度に 関するものだったが、少し難しかった ようだ。	大仲るみ子	下門礼子 金城弘子 太田雅子 仲田佳世
18	平成26年 10月24日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	12人	中国(4)台湾・アメリカ(各2) イタリア・ロシア・ブラジル・アルゼ ンチン(各1)	首里城祭の 新聞記事 動 詞を学ぶ	新規に来た人々も新聞記事のグル ープに入って、一緒に読む。今日 は首里城祭について、歴史やプログ ラムなどを読んだ。	大仲るみ子	福地利枝子 下門礼 子 金城弘子 太田 雅子 西原智子 仲 田佳世
19	平成26年 10月29日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	27人	フィリピン(5)中国(7)イタリア・ 台湾(各3)ロシア・アメリカ・イ ギリス・ナイジェリア・スペイン・ブ エルトリコ・ブラジル・ネパール・アル ゼンチン(各1)	あいさつ 自 己紹介 郵便 局の利用の 仕方、数字、 時間、曜日。	新しい学習者が増えているので、あ らためてそれぞれ自己紹介をする。 趣味や仕事など、難しい言葉も多 かったが、そのつど指導者が解説し ながら和気藹々と進んだ。その後、 郵便局の役割について話し合う。初 級は数字、時間に関する勉強をし た。	大仲るみ子	太田雅子 仲田佳世
20	平成26年 10月31日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	15人	フィリピン(4)中国(4)アメリカ・ 台湾(各2)イタリア・ブラジル・ ナイジェリア(各1)	ダイエットに ついての新聞 記事を読む ひらがなの練 習 時間につ いて	5つのグループに分かれて、それぞ れのレベルの課題に取り組む。新聞 はダイエットに関する記事を読む。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 津波古洋子 下門礼子 太田雅子 仲田佳世
21	平成26年 11月5日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	21人	フィリピン(4)中国(4)台湾 (3)イタリア(2)アメリカ・ナイジェ リア・イギリス・フランス・アルゼン チン・ロシア・スペイン・フランス(各 1)	余暇 公民館 の活用	自宅に近い公民館を探し、そこで行 われているサークル活動の案内を 読む。自分の趣味や、母国での経験 などいろんな会話が飛び出した。	大仲るみ子	下門礼子 金城弘子 仲田佳世
22	平成26年 11月7日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	22人	フィリピン(6)中国(5)台湾 (4)アメリカ(3)イタリア(2)ロシ ア・ナイジェリア(各1)	沖縄の方言	基本的な方言の会話を学びながらク イズを楽しむ。日常耳にすることもあ るので、みんな興味をもっていた。初 級の人々はレストランの会話を練習す る。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 下門礼子 金 城弘子 太田雅子 仲田佳世
23	平成26年 11月12日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	18人	フィリピン(3)台湾(4)イタリア (3)ロシア・ナイジェリア・ブエルト リコ・ブラジル・スペイン・アルゼン チン・イギリス・中国(各1)	円安の記事、 豚が高速道 路を逃げ回 ったという記事	「豚がトン走」というユーモラスな事 件に関する記事が好評だった。語彙 も難しくなく、場面もイメージしやす いからだろう。記事の選び方に工夫が 必要だ。	大仲るみ子	下門礼子 金城弘子 太田雅子 西原智子 仲田佳世

24	平成26年 11月14日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	19人	フィリピン(5)台湾(4)中国・ア メリカ(各3)タイ・ロシア・ナイジェ リア・スペイン・アルゼンチン(各1)	働く女性に関 する新聞記事 を読む	「ハッピーに挑戦を続ける」という働く 母親の記事を読みながら、女性が働く ことについて、それぞれの国の事 情を聞きあいながら会話を進める。	大仲るみ子	村越千代子 福地利 枝子 下門礼子 金 城弘子 太田雅子 仲田佳世
25	平成26年 11月19日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	17人	フィリピン(6)台湾(3)イタリア (2)ブルートリコ・ブラジル・スベ イン・アルゼンチン・中国・ナイジェ リア(各1)	キティーの記 事 銀行の使 い方	ハローキティーはみんな知ってい て、あらためてブランド力の高さを実 感する。銀行の言葉も漢字が多い が、役に立つといつて、真剣に学ん でいた。	大仲るみ子	津波古洋子 下門礼 子 金城弘子 太田 雅子 仲田佳世
26	平成26年 11月21日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	10人	台湾(3)アメリカ(3)ロシア・ブラ ジル・ナイジェリア・中国(各1)	町で見かける 漢字	受付や窓口、開閉、交通標識、いろ んなところに漢字があることに気づ き、その意味がわかって、みな納得 していた。	仲里美佳子	福地利枝子 下門礼 子 太田雅子 西原 智子 仲田佳世
27	平成26年 11月26日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	15人	フィリピン(2)台湾(4)イタリア (3)中国(2)ナイジェリア・ブラ ジル・ロシア・スペイン(各1)	インフルエン ザの予防	風邪との違いやかかったときの注意 点、予防方法についてプリントを使っ て学ぶ。	仲里美佳子	下門礼子 太田雅子 西原智子 仲田佳世
28	平成26年 11月28日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	12人	フィリピン(5)台湾(2)中国 (2)ナイジェリア・ブラジル・アメリ カ(各1)	町の情報を読 む 会話練習	趣味のサークルやフリーマーケット 情報を、フリーペーパーからみつけ る。初級は会話教材を使った会話 練習。	大仲るみ子	福地利枝子 太田雅 子 仲田佳世
29	平成26年 12月3日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	フィリピン(5)台湾・中国・アメリ カ・アルゼンチン・イタリア・ナイジェ リア・ブラジル・ロシア(各1)	震災後の仮 設住宅の記事	仮設住宅の記事は専門的で難し かったようだ。そのほか、会話を学 ぶグループ、家族について話すグ ループに分かれて学んだ。	仲里美佳子	下門礼子 金城弘子 太田雅子 西原智子 仲田佳世
30	平成26年 12月5日 18:30～ 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階8・9番 教室	13人	中国(3)台湾・イタリア・アメリ カ(各2)フィリピン・イギリス・ナイ ジェリア・ブラジル(各1)	ことばに関す る新聞記事を読 む	言葉に関する世論調査の結果の記事 を読む。「チンする」や「サボる」 「パニック」など、新しく日本語にな ることばをおもしろがっていた。	大仲るみ子	金城弘子 太田雅子 仲田佳世

(7) 参加者の募集方法

チラシを作って、各市役所の登録窓口や外国人が立ち寄りそうなところにおいてもらった。またフェイスブックやメールで、これまでの受講生や問い合わせがあった人に知らせた。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第16回

開催日:平成26年10月17日(金)

参加者:学習者 17人 日本人8人(うちスタッフ 7人)

内容:市役所・役場で使う言葉をプリントで学習し、漢字の読み方を学び、申請書に自分の名前を書く練習をする。沖縄の「縄」や那覇市の「覇」を何回も練習して、最後は同じ大きさで書けるようになっていた。上級者は琉球漆器に関する記事を実物をみながら読んでいく。日本人が少なく、中国人の上級者が初級者に中国語をまじえて、あいいうおの表記を教えたり、新聞を読むときも、同国の人が母語で説明してくれて、理解を促してくれる。自然に教えあう関係ができていて、それも大切なことだと思う。

第19回

開催日:平成26年10月29日(水)

参加者:学習者 27人 日本人 5人(うちスタッフ 2人)

内容:新しい参加者も加わり学習者で時間前から教室は一杯だが、日本人がなかなかこない。いつも別々のグループであまり顔を合わせない人もいるので、あらためてみんなで自己紹介+質問し合う、という形で、一人ひとり、立って発言してもらおう。初級の人は、最初は「いえいえ」といやがっていたが、みんなの様子をみて、名前と出身、そして「どうぞよろしくおねがいします」と全員が言えた。質問もすべて日本語で、指導者が助けたり、学習者同士で補い合いながら、和気藹々と楽しんだ。その後大人数で机を囲んだが、上級クラスは冗談を言い合いながら、郵便局について話し合い、初級クラスは数字、時間、曜日を勉強した。

第23回
開催日:平成26年11月12日(水)
参加者:学習者 18人 日本人 8人(うちスタッフ 5人)
内容:今日は「円安」の新聞記事を上級者に、「豚がトン走」を非漢字圏の人用に二種類用意したところ、非漢字圏の人に好評だった。これまでちょっと無理して、難しいものを読んでいたかもしれない。会話も弾んでいた。初級のグループは、ひらがなのグループと、買い物に関する会話のグループに分かれ、それぞれ楽しそうに学んでいた。グループ分けと、グループのテーマの設定には毎回苦労する。
途中イベントのお知らせをしようとしたが、みな会話に夢中で、しかたなく、帰りがけに通知した。まわりが聞こえないほど、みな集中していることに驚いた。



- (9) 取組の目標の達成状況・成果
今年は、1回でも参加した人を加えると62人の学習者が教室に足を運び、毎回10人を超えて集まる状態を最後まで継続できたことは、この教室に対する何よりの評価だと思っている。その後の就活講座や大交流会にも、この教室で培った人の和がいかにされた。毎回終了後にみな名残惜しそうにおしゃべりが続いたが、それも教室の雰囲気をお話している。
今年も平成23年、24年の養成講座受講生にスタッフをお願いした。ほとんどが2年目なので、状況を判断しながら協力してくれた。それも講座を元気あるものにした要因だと思う。
- (10) 改善点について
学習者が学びたい教材の提供のためには、さらに工夫が必要だと感じた。日本語が必要とされる生活の場面はだいたい10～15に絞れると思う。日本語レベル別に4種類ぐらいの教材を用意してネットで公開できるようなシステムを検討していきたい。

○取組4: 就職活動のための日本語教室

- (1) 体制整備に向けた取組の目標 : 日本の就職活動を理解し、自分でできるようにする。
(2) 取組内容 : ビジネスマナーの講師と日本の職場について学ぶ
(3) 対象者 : 就職を希望する外国人
(4) 参加者の総数 12人
出身・国籍別内訳

中国	2人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 アメリカ2人 スペイン2人 イタリア1人 スイス1人 ポリビア1人 アルゼンチン1人 マレーシア1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	1人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	人	

- (5) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 6 回)
(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 1月20日 18:30- 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階9番教 室	11人	アメリカ、スペイン(各2)、イタ リア、スイス、ポリビア、ブラジ ル、マレーシア、アルゼンチン、中国 (各1)	どんな仕事が したいか	これまでの体験や、これからやりた い仕事などについて3つのグループに 分かれて話し合う。	名嘉 泰	宮国香織 平良有輝 玉城善順 下門礼子 比嘉幸枝 仲田佳世
2	平成27年 1月22日 18:30- 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階9番教 室	8人	スペイン、イタリア、スイス、ポリビ ア、ブラジル、マレーシア、アルゼ ンチン、中国(各1)	仕事の探し方 ①	ハローワークの役割、外国人をサ ポートしてくれる機関の説明	名嘉 泰	宮国香織 平良有輝 津波古洋子 仲田佳 世
3	平成27年 1月27日 18:30- 20:30	12時間	日本文化経済 学院3階9番教 室	8人	スペイン、イタリア、スイス、ポリビ ア、ブラジル、マレーシア、アルゼ ンチン、中国(各1)	仕事の探し方 ②	インターネットでの仕事の探し方や、 英語で対応してくれるサイト、窓口な どの紹介。	名嘉 泰	宮国香織 仲田佳 世
4	平成27年 1月29日 18:30- 20:30	2時間	日本文化経済 学院3階9番教 室	9人	スペイン(2)、イタリア、スイス、ポリ ビア、ブラジル、マレーシア、アル ゼンチン、中国(各1)	履歴書を書く	履歴書に書いてある漢字の説明。自 分の経歴を日本語にして書く。	松園 あかね	玉城善順 津波古洋 子 大仲のみ子 仲田 佳世

5	平成27年 2月3日 18:30- 20:30	2時 間	日本文化経済 学院3階9番教 室	6人	スペイン、ホリビア、ブラジル、マ レーシア、アルゼンチン、中国 (各1)	面接のマナー	面接時の注意と動作の確認。おじ き、挨拶の言葉など、1人ずつチェッ クした。	松園 あかね	平良有輝 津波古洋 子 仲田佳世
6	平成27年 2月5日 18:30- 20:30	2時 間	日本文化経済 学院3階9番教 室	7人	スペイン、イタリア、スイス、ホリ ビア、ブラジル、アルゼンチン、中 国(各1)	仕事に応募 する	電話で、面接の約束をとる練習。	松園 あかね	玉城善順 津波古洋 子 大仲るみ子 仲田 佳世

(7) 参加者の募集方法

チラシを作って、公民館や外国人が立ち寄りそうなところにおいてもらった。またフェイスブックやメールで、これまでの受講生や問い合わせがあった人に知らせた。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

3回目

日時:平成27年1月27日(火) 18:30～20:30

場所:日本文化経済学院 9番教室

講師:名嘉 泰 (労福協のスタッフ1名、イレスコスタッフ1名)

受講生:8名

内容: 前回途中で終わったサポートが受けられる場所の説明をする。英語で説明してくれるところ、一緒に書類を書いてくれるところなどが県内にも数箇所ある、ということ、そしてどの課を訪ねればいいのか等が紹介された。その後、役に立つサイトの一覧が配られ、実際に民間情報誌のサイトから自分たちのできそうな仕事をさがしてみたり、英語で紹介するサイトを開いて確認したりした。

休憩後、生活情報が得られる多言語サイトや自動通訳アプリが紹介され、みな喜んでいて。最後に次回の準備として履歴書のフォームが配られ、そこに記載されている語彙一覧のうち、わからない言葉の意味を調べてくることを宿題にして、終わった。

今日は、県の多文化共生施策担当が見学に来ていた。

4回目

日時:平成27年1月29日(木) 18:30～20:30

場所:日本文化経済学院 9番教室

講師:松園 あかね (労福協のスタッフ1名、イレスコスタッフ3名)

受講生:9名

内容:いよいよ履歴書の書き方にはいる。まず履歴書上の語彙を確認し、それからサンプルをみながら、注意点を説明する。西暦と元号を一緒にしてはいけない、とか、「ふりがな」と書かれていたらふりがなはひらがなで、「フリガナ」と書かれていたらふりがなはカタカナで、とか、学歴・職歴は古い方から書くとか、みな初めて聞くことばかりで、熱心にメモをとっていた。

後半、自分で書いてみる、というワークに入ったとたん、問題続出。あちこちで質問の声があがり、講師も含め5人のスタッフが教室を飛び回り、対応に追われた。

主なものは、名前が長すぎてはいらない、住所の漢字が書けない、学歴を元号で書きたいが何年か、アルバイトも職歴に書いていいのか、インターンシップは書くべきか、等々、社会経験が長い人が多いので、履歴書の左部分でタイムオーバー。免許・資格からは、サンプルをみて自分で書いてくることを火曜日までの宿題として、終了した。

授業が終わってからも、日本人スタッフに自分の経歴を日本語でどう表せばいいのか、などの個人的な質問で遅くまで残っていた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国人にとって、求人情報誌をみること、面接をお願いする電話をいれること、履歴書を書くこと、ひとつひとつの意味を理解し、日本人と同じようにできるまでには、相当な努力が必要だということがわかった。今回連絡をとって講師を派遣してもらった沖縄県労働者福祉基金協会も外国人へのサポートを今後考えていきたいということで、これからも連携していきたい。

(10) 改善点について

今回学習者がとまどったり、理解しづらかったところをさらに詳しく、わかりやすくした教材を開発していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

沖縄県内に住む外国人が、日本語能力の不足によって不利益を生じないように日本語力をつけていくために、周囲の日本人が積極的に関わっていけるような態勢を整える。

(2) 事業目的の達成状況

生活に必要な日本語を学ぶ日本語教室、外国人が就活を学ぶ勉強会を開催することで、地域在住の外国人の輪がひろがった。また地域日本語教室に関する講演会や自国の文化を日本人に伝える大交流会に予想を超える参加者があり、周囲の日本人に多文化共生の意義を広く訴えることができた。受け入れる市町村の担当者が情報共有できる場として、「国際交流・多文化共生連絡会」がスタートし、沖縄に住む外国人が抱えている課題を定期的に話しあえる交流の場を創出することができたことも大きな前進だ。支援者間のつながりも強化され、本年度の事業を通して、今後地域日本語教育を推進する上で必要となる連携体制の土台づくりが達成されたと考えている。

(3) 地域における事業の効果、成果

今年度の事業を通じて沖縄県知事公室広報交流課、沖縄県国際交流人材育成財団、県内各市の国際交流団体等と頻りに連絡を取り、多文化共生に向けての意見交換ができる関係を作れたことが一番の成果としてあげられる。また、沖縄県労働者福祉基金協会と就活講座を協力して企画できたこと、日本語学校と共催で大交流会を実施できたことも、本事業の目的の一つである連携体制の強化に直結するものである。

また、平成23年度、24年度に実施した「日本語指導者養成講座」の受講生で去年の日本語教室に協力してくれたメンバーに企画推進委員をお願いし、本事業の推進の原動力となってもらった。単に日本語の勉強のお手伝いだけでなく、企画段階から話し合いに参加することで、積極的にアイデアを出したり、責任感をもって事業に取り組んでくれた。今後各地で日本語教室を広げていく上で中心的な役割を担うことが期待される。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

今年度、本事業をおこなったことで、さまざまな団体と出会いがあり、各地の現状も知ることができた。特に離島地域では、退職教員が暗中模索で日本語教室を始めていたり、そうした機会すらない場所も多くあり、市町村の担当者の積極的な取組を促す必要がある。また、日本語の勉強を希望する外国人と交流したい日本人のネットワークの構築も各地で必要とされている。

ii 今後の課題

今年度で6回目となった日本語教室であるが、毎回学習者の顔ぶれがかわり、新たに入国する外国人の多さに気づかされる。そうした人たちが日本の生活に早くなれるためには、家族だけでなく公的な機関がオリエンテーションをして情報を提供することが必要となっている。それができるまでは地域日本語教室が情報提供したり、素朴な質問に答えたりする役目を担わざるを得ない。

そうした視点から日本語教室を捉えなおすと、教材選択や指導内容の方向が見えてくる。沖縄を訪れた外国人が長期・短期に関わらず、日本をよく理解し、安全・安心に生活できる環境の下、地域の一員として社会参加できるように、日本語教室を中心とした交流の場を拡げていきたい。

iii 今後の活動予定

県内各地の国際交流を担当する団体の連絡会に継続的に参加しながら、特に日本語教育に関する情報発信をする一方、教材の選定やインターネットを活用したネットワーク作りなどに取り組みたい。

今後ますます増える外国人を、一緒に地域をつくる仲間として受け入れる下地を作るうえで、本事業の果たす役割は大きいと感じている。今年度培ったネットワークを地域日本語教育の普及発展につなげていけるよう、これからも積極的に活動していきたい。

(5) その他参考資料

添付資料

- 1 運営委員会議事録
- 2 企画推進委員会議事録(第1回～第4回)
- 3 取組1 国際交流・多文化共生連絡会議事録(第4回、第11回)
多文化共生担当者連絡会計画表と配布した資料
- 4 取組2 講演会 チラシ・報告書・アンケートの一部
大交流会 チラシ・報告書・感想の一部
- 5 取組3 日本語教室 チラシ・教室記録
- 6 取組4 就活講座 チラシ・授業記録